

会 議 要 旨

会 議 名	平成30年度 第5回館山市行財政改革委員会
開 催 日	平成31年3月29日(金) 13:30~15:50
開 催 場 所	館山市役所 本館2階会議室
出 席 者	◆ 館山市行財政改革委員会委員 7名(1名欠席) ◆ 館山市(事務局) 副市長・総務部長・行革財政課(課長以下5名)
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
傍 聴 者	0名
会議概要・結果等	<p>○情報提供 ①平成31年度当初予算の状況 ②指定管理者制度の導入について(館山城・城山公園等) 以上2点について、事務局から報告。</p> <p>【①に関する主な委員意見】 (●:委員意見 ⇒:事務局回答 ○:委員同士の議論) ●過去最大予算になったが、10万人未満の市で人口一人あたりの予算額にするとかなり低い。市債残高も圧倒的に低い。この10年切り詰めてやってきた結果だろう。10年、20年の市の経営を考えると、今の努力はいつか報われるのではないか。 ●館山市には合併の恩恵(合併特例債)がなかったから、行政も議会も行財政改革を必死にやってきたその成果だと思う。</p> <p>【②に関する主な委員意見】 ●5年間の延長条件は成果指標になっており、とても良いやり方だ。しかし、満足度調査は概ね高くなる傾向にある。なぜ7割か? ⇒条件を満たしたら無条件で5年間延長ではなく、1者のみの提案審査に行ける権利を得るということ。 ⇒7割は確かに緩いが、入館者3%増はかなり厳しい。事業者の事業展開とノウハウの見せどころであり、最初から厳しくしすぎると、腰が引けて投資してもらえない危険性がある。</p> <p>●想定しているのはかなり大規模な事業者か? ⇒営業活動は投資を引き出せる企業を中心に行っている。市内を蔑ろにするわけではなく、大手と地元企業が手を組む(コンソーシアム方式)提案も可としている。</p>

- 大きなアスレチックを造り、20～30コースを設け、ツアー造成には恋人の聖地のようなストーリーがあれば面白いのでは。あのエリアをどう楽しくできるだろうと考えれば、色々な話が出てくるのでは。
- よく公園を利用する。県外客を取り込むのもよいが、地元市民にとっても、魅力が増えるのは嬉しいこと。

○協議事項

事業仕分けの実施方針

①スケジュールの再確認

前回委員会での指摘等を踏まえ、事業仕分け実施までの市・行財政改革委員会・市民判定人のスケジュールを再確認。

②対象事業の選定

対象事業10件すべてをイベント事業とすることの是非について議論。

【主な委員意見】

- 選定の観点を「財政効果を伴う事業の見直し」とするならば、歳出削減が主眼となる。しかし、事業の職員労力を減らしたからといって、人件費が減るわけではない。歳出削減・財政効果を置きつつ、職員労力の軽減を考えるとということになるのか？

⇒イベントを見直した場合、職員の時間外勤務手当等、すぐに反映してくる部分はある。

⇒イベントだけで実施することには、事務局内でも議論がある。イベントは不特定多数の方が関わる。受益者が限られるものではないので、賛否が問われるだろう。また、職員の人件費云々が強く出ると、市の職員は仕事でやっていることなのに、楽をしたいのか、という議論になりかねない。市民に行政について関心を持ってもらうという意図で事業仕分けという手法を取り入れ、その中で、市の実施事業で、職員が動けばコストもかかっているという視点も必要とは考えている。

- イベントを議論することで確実に時間外勤務手当が減るのであれば、人件費の削減を明確に打ち出してしまったほうがよいのでは。去年の時間外勤務手当がいくらで、何割くらいがイベントかというところがわかると、市民にとってもわかりやすい。

- 判定人の人数（50人目標）は妥当なのか。また、判定人への研修、何も知識のない人を行政が誘導する可能性がある。客観的な研修方法が用いられるのか。

⇒研修は市職員が行わず、委託先である構想日本が行う。誘導にならない、平等な事業判定につながるノウハウを持っているものと考えている。

- 10事業はオープンにして判定人を募集するのか。事業に対し強い思い入れを持った人が来てしまうと、判定に偏りが出てしまうのでは。

- 募集の段階では、事業はオープンにしないほうがよい。

- 市職員の人件費云々で、イベント事業を公的な事業仕分けにかけるということ自体、違和感がある。もっと大切なことを考えなければならない

のではない。イベントに係る団体、一つ一つはボランティア集団。市民のために無償でやっているはず。市職員の人手のかけ方など、各団体ともっと話をすべきではないか。

⇒事務局でも危惧している点。人件費が表に出ると、市の職員が、業務が辛いから、こういう場を借りて楽になろうという見方も出かねず、委員会に諮っている。

●事業仕分けは、事業をやる・やらないではなく、事業にどこまで行政が関与するか、議論する場であり、その議論ができれば成功と考えている。懸念は当たらないのではないか。

●イベントでやること自体は賛成。判定人も参加しやすいだろう。ただ、市の財政的にはどうなのか、という点では把握しにくいのでは。

○今までは職員数もいたので、市民に喜んでもらえるよう、プラスアルファのサービスでやってきた。人も減ったし、「じゃあこうしようか」という話をするだけのことではないのか。一つ一つの会議の中で、話をすれば、わかってくれるのでは。それをしないで、ざっくりとなくそうとするという方が負担では。市民が考えるきっかけという説明があったが、仕分けの短い時間の中で、それが伝わるのか。

○行政の中で決めてしまえることはたくさんあるが、そこに市民の目線を入れることに意義があるのでは。行政、市民、お互いが納得できた上で事業ができれば、これまで行政だけでやってきたものが、市民にも決定権が移る、一つの手段ではないか。

○事業を担当しているかの職員が、自分のやっている事業について、どれほど熱意をもってやっているのか。それが市民に説明できるのか、またそれを市民が理解し判定することが大事だし、事業仕分けのよいところだと思う。

○自分も関わっているイベントがあるが、実態は市の職員が全部お膳立てをしたところに乗っているだけ。申し訳ないと思う一方で、高齢の方が担うのは難しい部分もあると思う。そもそもやる意義があるのか、ちゃんと議論しなければ。

●事業仕分けの対象にするということはどういうことか。内部の人だけでなく、外部の関わっていない人が、客観的に、ゼロベースで見た上で、評価し、改善すること。その特徴を活かすための事業選定となっているのかどうかということだが、今回事務局が選定した観点は、議論をするための論点で、主観が働いている。一般的には、事業費いくら以上、実施何年以上という客観的な基準から選定する。今回の観点が悪いというわけではないが、これで選定してしまうと、論点がかなり絞られてしまうだろう。事業費ベースでみると金額が大きいものも少ない。それでも10件すべてをイベントでやるのか。

⇒次年度以降も事業仕分けを実施したいと思っている。判定人にわかりやすくするには、同一の分野のほうがよいと考えている。イベントは市民の方を巻き込んでいるからこそ、予算査定では見直しが難しい分野。だからこそ、市民の意見を聞きたい。

⇒今回提案した選定の観点は、確かに委員指摘の通り。金額や期間等で選定したほうがよいという認識。

- イベントに特化し、10件やるべきか。ここで結論を出さず、事務局にはもう一度提案してもらいたいと思うが。
- 次年度事業を選定するタイミングも設けられている。一回目はすべてイベントでやっていいのでは。
- 若年層にもわかりやすくしてほしいと思う。高齢者は福祉を、という声もあるかもしれないが。ただ、(議論の対象として) 軽いのでは？
- 久しぶりにやる事業仕分け、イベント10件でいいのか。もっと他に議論することはあるのではないか。イベントがダメということではなく、10件全てというところと違ってくる。
- 10件選んで、たとえば金額を半分にしても、市職員のストレスは同じ。金額ではなく、業務の時間を何とかしてください、ということではないか。その議論を市民に問うのか。「これを今議論することか？」と気づく人もいると思う。項目を変えた方がよい。
- 10件イベントだと飽きてしまうのでは。イベントもいいが、他にもやることで仕分け人、判定人、一緒に考えることができる。イベントだけにすると、1事業ずつに、なぜ仕分けにかかるのか、目的意識が必要。
⇒ 今回抽出した事業、仕分けの対象と成り得る観点はいくつもある。しかし、見せ方という面からも、見直したい。
- 今日の議論を事務局は再度検討し、次回委員会にて決定したい。